

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名：歩容意図行動モデルに基づいた人物行動解析と心を写す情報環境の構築

2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名(研究機関名・職名は研究参加期間終了時点):

研究代表者

八木 康史 (大阪大学 理事・副学長)

主たる共同研究者

塩入 諭 (東北大学電気通信研究所 教授)

波部 斉 (近畿大学理工学部 講師)

3. 事後評価結果

○評点:

A 期待通りの成果が得られている

○総合評価コメント:

映像中の歩行パターン(歩容)から人の意図、心身状態、人間関係を読み取る技術の開発、歩容計測技術に基づく歩容意図行動コーパスの構築、安全安心、商業利用、高齢者支援の3つの応用場面への社会実装の基盤構築に取り組んだ。この結果、①独自に開発した没入型歩行環境において眼球計測装置とモーションキャプチャを用いて歩容データを取得・分析することにより、注視方向、頭部方向、胸部方向に線形の関係を見出し、歩容から視線を推定するモデルを構築した、②一般の防犯カメラからの低フレームレートの映像からの歩容認証手法を実現した、③意図を含んだ歩容データベース、一人称・三人称撮影を組み合わせた歩容データベース、日本科学未来館での常設展示で収集した直線歩行とデュアルタスクに関わる大規模歩容データベースなどからなる、世界で比類のない総合的歩容データベースを実現した、④即時フィードバックによる万引き未然防止、注視行動の可視化による万引き犯の検知、測定結果フィードバックによるやる気増進など社会実装への基盤を築いた。これらの成果は独創性が高く、人間調和型情報技術としての今後の発展が期待される。